

旅行部会

由良温泉と銀山温泉の旅

小杉 哲（昭和41年 理工）

旅行部会は由良温泉と銀山温泉の旅（2泊3日）をクラブツーリズムの企画を一部買い取る形で実施しました（会員とその家族13名参加）。

2017年12月10日8時50分、東京駅日本橋口に全員が予定通り集合した。今回の旅行は旅行部会としては初めての国内2泊の旅で、我々13名を含め総勢25名であった。東京駅から上越新幹線で新潟駅へ、そこから秋田駅行特急で冬の日本海を進行左手に見ながら1時間半ほどであつみ温泉駅に着いた。ホテルの小型送迎バスで早々と2時半には由良温泉のホテル八乙女（やおとめ）に到着した。今回の旅行は万事このようにゆったりとしたもので、もうすぐ後期高齢者となる小生にもありがたかった。ホテルは砂浜の海岸に接しており、夕食までに十分時間があつたので砂浜を30分ほど歩き、欄干が朱塗りの橋を渡って白山島という小島に行った。この島の頂上には白山神社という社があり、その景観から「東北の江ノ島」とも呼ばれている。旅行の楽しみの一つは風呂だが、ここは無色透明の天然温泉。屋上には眼前に日本海を眺めながら入れるのがうたい文句の露天風呂もあるが、残念ながら今回は天候の関係でクローズされていた。もう一つの楽しみである夕食は、我々だけのために用意された『歓迎目黒稲門会』の横断幕がある大広間でアワビの踊り焼きや紅ズワイガニなど日本海で獲れた海の幸を堪能した。



翌朝9時にホテルを出発し、大型バス約40分で酒田市にある山居（さんきょ）倉庫に到着した。ここは明治時代に酒田米穀取引所の付属倉庫として建てられ、その後取引所は廃止されたが建物はそのまま保存され、現在も米倉庫として使われているとのこと。船による輸送に便利のように川に面し、夏の高温化防止のため背後にケヤキ並木を配し、湿気防止目的で建物は二重屋根構造となっている。ケヤキ並木はNHK連続テレビ小説「おしん」のロケ地でもあり、吉永小百合さんがJRの宣伝ポスターで

写っていた場所でもある。このころからみぞれ交じりの冷たい小雨が降りだした。山居倉庫見学後バス約60分で出羽三山（でわさんざん）の一つである羽黒山に着いた。出羽三山とは、山形県庄内地方近辺にある月山（1984m）、湯殿山（1504m）および羽黒山（414m）を一まとめにした総称であり、それぞれの山頂には神社がある。羽黒山は標高が最も低いが、ここに三山の神々を統合して祀る神殿がある。この時期は雪のため石段がある正面からはアクセスできず、小雨のなかを本殿にごく近い駐車場から残雪で滑りそうになりながら杉並木の坂道を登って本殿裏口から入って参拝した。

その後移動時間約50分で最上川舟下りの出発点である古口（ふるくち）に到着した。舟着き場内の直営売店で十分買い物ができるよう(?)30分以上待たされた。これは芭蕉ライン舟下りと呼ばれ、『五月雨を集めてはやし最上川』の句から急流を想像したが、非常にゆったりとしたものだった。屋形船風の舟で、兩岸の溪谷美や滝を見ながら地元名物の竹かご弁当を堪能した。船頭の案内や地元民謡を聞くこと約60分で川の駅・最上峡くさなぎに着いた。

小雨の中、バス移動約70分で銀山温泉銀山荘に到着した。銀山温泉は前述した「おしん」の舞台となったことで一躍脚光を浴び、全国的に有名となった。我々の宿は銀山温泉では最も大きいものだが、よくPR写真等で見る銀山川の両側に温泉宿が建ち並ぶ温泉街からは徒歩10分ほど離れている。宿の送迎バスで温泉街の入り口まで行き、ガス灯のともった幻想的な温泉街を散策した。ネット上でも有名な立ち食い豆腐屋で200円の湯豆腐を購入し、店の前の川沿いに別棟として建てられた小屋で椅子に座って賞味した。ここの風呂も前日同様無色透明。夕食はやはり我々だけの個室で、山形県産黒毛和牛など郷土料理と地酒を十分に堪能した。宿に到着した時は小雨だったが、夕食後部屋に戻ると外の景色は一変して猛吹雪となっていた。翌朝部屋の前の川と森は一面真っ白な雪景色で、玄関前では車の屋根に20cm以上積もった雪を苦労して下ろしていた。宿の入り口軒先では久しぶりに氷柱も見た。

三日目は宿を10時に出発し、約30分で大石田駅に到着した。この駅は奥羽本線と山形新幹線の共用駅で、新幹線が在来線のホームにつくの初めて見た。駅舎は屋根が階段状になっており、最上川花火大会の時はそこに座って見物するとのことだが、雪が積もり段差も分からないほどであった。山形新幹線の車内でもいつものように賑やかな酒盛りで、あっという間に予定通り東京駅に午後二時半過ぎ到着し、解散した。井村部会長はじめ参加された皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。